

和田律子教授略歴・主要業績

略歴

昭和二十四年八月（一九四九） 東京都武蔵野市に生まれる

昭和四十七年（一九七二）三月 立教大学文学部日本文学科卒業

立教大学大学院文学研究科日本文学専修博士前期課程を経て

昭和五十五年（一九八〇）三月 立教大学大学院文学研究科日本文学専修博士後期課程満期退学
博士（文学）

平成十一年（一九九九）四月 流通経済大学流通情報学部助教

平成十三年（二〇〇一）四月 流通経済大学法学部助教

平成十七年（二〇〇五）四月 流通経済大学法学部教授

令和二年（二〇二〇）三月 流通経済大学定年退職

令和二年（二〇二〇）七月 流通経済大学名誉教授

茨城キリスト教大学・川村学園女子大学・聖学院大学・立教大学・早稲田大学大学院等非常勤講師を歴任

専門分野

平安時代文学・文化研究―主として『更級日記』と藤原頼通時代の平安時代後期文学文化論

第二次第四回関根慶子賞受賞(著書『藤原頼通の文化世界と更級日記』新典社、二〇〇八年)

【単著】

修士論文「『更級日記』をめぐる文芸世界の研究―祐子内親王家サロンの研究」立教大学文学研究科日本文学専修に提出 昭和五十二年(一九七七)三月

博士予備論文「藤原頼通の文化世界と更級日記」附藤原頼通年譜」立教大学文学研究科日本文学専修に提出

昭和五十五年(一九八〇)三月

学位論文『藤原頼通の文化世界と更級日記』立教大学に提出 平成十九年(二〇〇七)三月二十三日(学位

(博士文学)を授与された)

『藤原頼通の文化世界と更級日記』新典社、平成二十年(二〇〇八)

【共編著】

『更級日記の新研究―孝標女の世界を考える』(久下裕利氏と共編 新典社、平成十六年(二〇〇四)九月)

『知の挑発③平安後期頼通文化世界を考える―成熟の行方』(久下裕利氏と共編 武蔵野書院、平成二十六年

〈二〇一四〉七月)

『更級日記の新世界』(久下裕利氏福家俊幸氏と共編 武蔵野書院、平成二十七年(二〇一五)十月)

『更級日記』上洛の記千年―東国からの視座』（福家俊幸氏と共編 武蔵野書院、令和二年（二〇二〇）七月）

【主要論文】

「蜻蛉日記」「更級日記」地の文における敬語表現について（『立教大学日本文学』第三十五号、昭和五十一年（一九七六）二月）

「夜の寢覚」「浜松中納言物語」「狭衣物語」の引歌について―菅原孝標女物語作家説肯定への一試論―」（『立教大学日本文学』第三十七号、昭和五十一年（一九七六）二月）

「祐子内親王家のサロン形成―菅原孝標女物語作家説考究のために―」（『立教大学日本文学』第三十九号、昭和五十二年（一九七七）十二月）

「長久前後の藤原頼通―文芸との関連から―」（『緑聖文芸』第二十四号、女子聖学院短期大学国語文学会、平成五年（一九九三）三月）

「高陽院関白藤原頼通―頼通中心の文芸世界をめぐる―」（『立教大学日本文学』第七十一号、平成五年（一九九三）十二月）

「更級日記」における宮仕えの記をめぐる（『立教大学日本文学』第七十四号、平成七年（一九九五）七月）

「更級日記」終末部に関する試論」（日記文学研究会編『日記文学研究 第二集』新典社、平成九年（一九九七）十二月）

「更級日記」冒頭部に関する試論」（『立教大学日本文学』第八十号、平成十年（一九九八）七月）

- 『更級日記』考―上洛の記の「大井川」叙述を中心に―（『立教大学日本文学』第八十一号、平成十年
 〈一九九八〉十二月）
- 『更級日記』の富士山―「さまことなる山の姿」をめぐる―（『流通経済大学流通情報学部紀要』第四卷
 第二号、平成十二年〈二〇〇〇〉三月）
- 『更級日記』―「白き相」ということ―（守屋省吾氏編『論集日記文学の地平』新典社、平成十二年
 〈二〇〇〇〉三月）
- 『後冷泉朝期の藤原頼通―『四条宮下野集』を軸として―」（『立教大学日本文学』第八十五号、平成十三年
 〈二〇〇一〉一月）
- 『平安時代の富士山―あこがれとおそれのあいだで―」（青弓社編集部編『富士山と日本人』、平成十四年
 〈二〇〇二〉十月）
- 『後冷泉朝文化圏の変質―歌合の場における後冷泉天皇と関白頼通の姿勢をとおして―」（『法学部開校論文
 集』流通経済大学出版社、平成十四年〈二〇〇二〉十月）
- 『文化発信の地としての宇治平等院―宇治関白藤原頼通と宇治大納言源隆国の関係から―」（『鳳翔学叢』創
 刊号 平等院、平成十六年〈二〇〇四〉三月）
- 『更級日記』「萩の葉」段の笛吹く人をめぐって」（『日記文学研究誌』第六号、日記文学研究会、平成十六
 年〈二〇〇四〉三月）
- 『藤原頼通晩年の菟書と『更級日記』―狂言綺語の文芸観を中心に―」（石原昭平氏編『日記文学新論』勉誠
 出版、平成十六年〈二〇〇四〉三月）
- 『更級日記』論にむけて―「萩の葉」の段から考える―（和田律子久下裕利氏共編『更級日記の新研究』

- 新典社、平成十六年（二〇〇四）九月）
- 「新研究」ということ」（和田律子久下裕利氏共編『更級日記の新研究』新典社、平成十六年（二〇〇四）九月）
- 「藤原頼通の生涯（一）―「たづ君」の時代―」（『流経法学』第六卷第二号、平成十八年（二〇〇六）十二月）
- 「『更級日記』の通過儀礼―物語をつむぐ人生の始発としての13歳―」（小嶋菜温子氏他編『王朝文学と通過儀礼』竹林舎、平成十九年（二〇〇七）年十一月）
- 「京都大学附属図書館平松文庫蔵『定家朝臣記』翻刻・解題」（『鳳翔学叢』第五輯 平等院、平成二十一年（二〇〇九）年三月）
- 「シンポジウムを終えて―「頼通文化世界の一員としての孝標女」との関連で―」（『日記文学研究誌』第十一号、日記文学研究会、平成二十一年（二〇〇九）年三月）
- 「孝標女の「石山」―「影をならべ」を中心に―」（久下裕利氏編『平安後期物語の新研究―寢覚と浜松を考える』新典社、平成二十一年（二〇〇九）年十月）
- 「孝標女の表現世界と三条西実降―「影をならべ」をめぐって―」（『むらさき』第四六輯、紫式部学会、平成二十一年（二〇〇九）年十二月）
- 「流通経済大学蔵祭魚洞文庫『百人一首 全』（『流経法学』第十一卷第二号、平成二十四年（二〇一二）一月）
- 『四条宮下野集研究（一）』（九）」（横溝博・高橋由記・中村成里・有馬義貴・大塚誠也各氏と分担執筆。『鳳翔学叢』（平等院紀要）第九輯〜第十六輯（以下継続中）、平等院、平成二十四年（二〇一二）三月）
- （令和二年（二〇二〇）継続中）

- 「宇治殿につどう女房たち―宇治川を渡る四条宮下野―」（久下裕利氏編『王朝の歌人たちを考える―交遊の空間』武蔵野書院、平成二十五年〈二〇一三〉四月）
- 「藤原頼通文化世界における『枕草子』撰取の一樣相―『更級日記』を中心に―」（古代中世文学論考刊行会編『古代中世文学論考』第二十九集新典社、平成二十六〈二〇一四〉年四月）
- 「『源氏物語』から『更級日記』へ―歌ことば―梅の立ち枝』の継承―」（原岡文子氏河添房江氏編『源氏物語 煌めくことばの世界』翰林書房、平成二十六年〈二〇一四〉四月）
- 「源師房について―藤原頼通文化世界の一員として―」（和田律子久下裕利氏共編『知の挑発③平安後期頼通文化世界を考える』武蔵野書院、平成二十八年〈二〇一六〉七月）
- 「『更級日記』の歌ことば」（福家俊幸氏和田律子久下裕利氏編『知の遺産③ 更級日記の新世界』武蔵野書院、平成二十八年〈二〇一六〉十月）
- 「『更級日記』の宮仕え・孝標女の宮仕え」（福家俊幸氏和田律子久下裕利氏編『知の遺産③ 更級日記の世界』武蔵野書院、平成二十八年〈二〇一六〉十月）
- 「藤原頼通の文化世界―文化発信と知の共有の基層―」（『日記文学研究誌』第十九号、日記文学会、平成二十九年〈二〇一七〉七月）
- 「『更級日記』と平安時代の上総いちはら」（『房総古代道研究（三）』房総古代道研究会、平成三十年〈二〇一八〉十二月）
- 「高陽院「駒競行幸」時代の藤原頼通に関する一考察―「行幸和歌」の「白菊」を中心に―」（『史聚』第五十一号、平成三十年〈二〇一八〉四月）
- 「藤原頼通文化世界と歌合―上東門院彰子菊合を中心に―」（『国語と国文学』平成三十一年〈二〇一九〉三月）

号)

「藤原頼通の文化世界領導認識―「高陽院行幸和歌」から「上東門院彰子菊合」へ―」(桜井宏徳氏中西智子氏福家俊幸氏編『藤原彰子の文化圏と文学世界』武蔵野書院、令和元年(二〇一九)十月)

「『更級日記』における阿弥陀仏来迎夢の意味―乳母願望叙述と物語作者としての矜持を中心に―」(和田律子福家俊幸氏編『更級日記 上洛の記千年―東国からの視座―』武蔵野書院、令和二年(二〇二〇)七月)

「藤原頼通の高陽院―文化発信の拠点として―」(木本好信氏編『古代史論聚』岩田書院、二〇二〇年(令和

他
二〇一八年)

【辞典等項目執筆】

『日記文学事典』守屋省吾氏森田兼吉氏他編 勉誠出版、昭和六十一年(一九八六)二月

『和歌大辞典』犬養廉氏井上宗雄氏他編 明治書院、昭和六十一年(一九八六)三月

『福武古語辞典』井上宗雄氏他編 福武書店、昭和六十三年(一九八八)九月

『角川全訳古語辞典』久保田淳氏他編 角川書店、平成十年(一九九八)十月

『日本女性史大辞典』金子幸子氏黒田弘子氏菅野則子氏義江明子氏編 吉川弘文館、平成十九年

(二〇〇七)十一月

他

【その他】

講演録「源氏物語―「ほんとう」のもつちから―」（東葛川柳会会報『ぬかる道』第二十四号、平成二十年

〈二〇〇八〉三月）

連載エッセイ「美しい日本語―暮らしのなかで受け継がれてきた日本の心―」（アイ・メイトクラブ」

vol 36〜42（株式会社INAXメンテナンス）、平成二十一年〈二〇〇九〉五月〜平成二十二年

〈二〇一〇〉十月）

「法学部の基礎教育」（『流経法学』第十一巻第二号、平成二十四年〈二〇一二〉一月）

「祭魚洞文庫に伝わる百人一首の世界」（流通経済大学「RKUToday」十九号、平成二十四年〈二〇一二〉四月）

書評「石田修大『我生きてこの句を成せり―石田波郷とその時代』」（『流経法学』第十二巻第一号、平成

二十四年〈二〇一二〉十月）

「時の回廊―平等院鳳凰堂―」（『日本経済新聞』夕刊（関西版）平成二十四年〈二〇一二〉十一月十三日掲載

書評 今泉恂之介著『伊那の放浪俳人 井月現る』（『流経法学』平成二十七年〈二〇一五〉七月）

書評 斎藤菜穂子『蜻蛉日記新考―兼家妻として「書く」ということ』（『国文学研究』第189集（早稲田

大学国文学会）、令和元年〈二〇一九〉十月）

新刊紹介 元吉進氏著『更級日記と東国の風景』（『学苑』第948号（昭和女子大学）、令和元年

〈二〇一九〉十月）

他

【社会的活動―講演・講座講師等】

源氏物語を楽しむ会講師（元流通経済大学龍ヶ崎市連係講座）平成十二年（二〇〇〇）四月～継続中

松戸市教育委員会諮問委員 平成二十一年（二〇〇九）三月～平成二十六年（二〇一四）三月

取手カルチャー講師 平成二十一年（二〇〇九）三月～平成二十六年（二〇一四）三月

柏市シルバー大学院古典講読講座講師 平成二十七年（二〇一五）七月～継続中

NHK文化教室（柏校）講師 平成三十年（二〇一八）十月～継続中

「王朝の雅を暮らしに活かす」流通経済大学龍ヶ崎市連係講座講師 平成十三年（二〇〇一）年五月十九日

～六月十六日（全五回）

『源氏物語』を支えた女性たち」流通経済大学春季講座（龍ヶ崎）講師 平成十五年（二〇〇三）五月

二十四日～六月二十一日（全五回）

「能楽鑑賞会―金春流 能「半蔀」」流通経済大学学園祭講師（龍ヶ崎市協賛）平成十五年（二〇〇三）十一月二日

「能楽鑑賞会―金春流 能「杜若」」流通経済大学公演会講師（新松戸）平成十六年（二〇〇四）七月三日

「平安時代の女性たちの旅と人生」流通経済大学講演会講師（新松戸）平成十六年（二〇〇四）十二月十一日（含特別企画「講演会 岩佐美代子氏「宮廷生活気質」」

衣裳から見る王朝の文化と生活」流通経済大学春季講座講師（龍ヶ崎）平成十七年（二〇〇五）五月

二十八日～六月十八日（全四回）

「古典文学からみる装束の役割」流通経済大学秋季講座講師（新松戸）平成十七年（二〇〇五）九月二十四

日〓十月十五日(全四回)

「宮廷装束の世界―平安時代から現代皇室まで」企画・講師(岩佐美代子氏・千石宗久氏・和田講演) 流通
経済大学秋季講座特別講演会(新松戸) 平成十七年(二〇〇五) 十月二十二日

講演『源氏物語』にみる女の生き方・男の生き方 ふじしろ地区女性活動企画員会議講演会 平成十八年
(二〇〇六) 二月二十六日

講演「歌合について―みやびな真剣勝負―」千葉県高等学校文化連盟専門部会平成十八年度文芸研修会(於
千葉県立佐原高校、流通経済大学学生有志参加 平成十八年(二〇〇六) 七月二十八日)

「古典文学に見る平安貴族の人生」流通経済大学・松戸市公民館連携市民講座 平成十九年(二〇〇七) 二
月七日〓二月二十八日(全四回)

対談「『源氏物語』とシルクロード―古代の中国と日本の食文化の交流」流通経済大学学園祭(龍ヶ崎市協
賛〈流通経済大学教授古田朱美氏との対談〉平成十九年(二〇〇七) 十一月四日)

講演「藤原頼通の文化世界と『更級日記』」平成十九年(二〇〇七) 十一月三日、大東文化大学日本文学会
秋季大会

「王朝文学の魅力を探る―『更級日記』の世界―」にいがた市民講座講師 平成十九年(二〇〇七) 十二月
一日・八日(全二回)

講演「『源氏物語』―「ほんとう」のもつちから―」東葛川柳会主催講演会 平成二十年(二〇〇八) 一月
二十六日

「『源氏物語』千年紀を楽しむ―第1回『源氏物語の出現』このわたり若紫やさぶらふ―」第5回「宇治
十帖の世界」―牛久市読書団体連合会主催講座講師 平成二十年(二〇〇八) 五月十六日〓十月十一日

(全五回)

講演「『源氏物語』千年紀によせて―大学教育と文化の力―」流通経済大学入試センター企画 平成二十年
(二〇〇八) 七月二十六日

「お茶を極める―お茶の文化交流― 茶の湯文化と『源氏物語』」(古田朱美氏・日笠博司氏・松田英氏と)
流通経済大学・松戸市公民館連携市民講座講師 全五回のうち、平成二十年(二〇〇八)十月四日担当
講演「『更級日記』という物語」といまま市教育委員会・さいたま市大宮区等主催 新しい「大宮」発見
まちづくりフォーラム「関東の古代と更級日記」平成二十年(二〇〇八)十一月十六日

講演「頼通文化世界の一員としての孝標女」日記文学研究会第五十五回大会シンポジウム「もうひとつの千
年紀―『更級日記』と孝標女をめぐる―」平成二十年(二〇〇八)十二月二十日

講演「『源氏物語』にみる男の生き方・女の生き方―宇治十帖の世界から― 取手市藤代図書館祭記念講演
平成二十一年(二〇〇九) 四月

「日本の茶文化の歴史をたどる」(「みんなで語ろう 日中茶文化の交流」流通経済大学教授古田朱美氏と)
平成二十一年(二〇〇九) 十一月一日 流通経済大学学園祭(龍ヶ崎市協賛公開講座) 講師

「日本文化の中の「遊び―『源氏物語』を中心に―」 流通経済大学松戸市連携講座講師 平成二十二年
(二〇一〇) 二月五日～三月十六日(全五回)堀口悟氏・上田恭代氏と)

「和歌の世界に遊ぶ―流通経済大学所蔵新資料『祭魚洞文庫 百人一首』の歌人たち」(立川和美氏・兼築信
行氏・寺島恒世氏と) 流通経済大学・松戸市共催市民講座(全三回) 講師 平成二十二年(二〇一〇)

六月三十日～七月一四日

「平安時代の女性たちの旅と人生」流通経済大学秋季講座講師(新松戸) 平成二十四年(二〇一二) 八月

講演「『源氏物語』を未来へ」（『源氏物語』を楽しむ会一〇〇回記念講演）流通経済大学（龍ヶ崎）学園祭協賛 平成二十四年（二〇一三）十一月四日

「松里（松戸）」の記述もある『更級日記』を読んでみよう」松戸市市民団体「ねぎぼうず」企画講座講師 平成二十五年（二〇一三）二月八日～二月二十八日（全三回）

講演「『源氏物語』を現代に活かす」株式会社日通総研主催講演会 平成二十五年（二〇一三）三月

講演「『源氏物語』の雪月花」流通経済大学附属柏高等学校校父母会講演会 平成二十五年（二〇一三）九月

特別講演会「『源氏物語』を未来へ」（神野藤昭夫氏・畠山大二郎氏と）。主催「源氏物語を楽しむ会」後援

流通経済大学 於流通経済大学龍ヶ崎キャンパス 平成二十五年（二〇一三）十一月三日

講演「王朝のみやびを現代に活かす―文化の継承をめぐる―」松戸市教育委員会「古典の日記念事業」（全二回）平成二十五年（二〇一三）十一月七日

講演「暮らしのなかの雪月花―古典文学の世界から―」立教大学校友会主催 平成二十六年（二〇一四）二月六日

「猫の文学散歩―猫好きの王朝人たち（2）―」流通経済大学松戸市連携講座講師（全四回）高橋由記氏・立川和美氏・馬場啓一氏と）平成二十六年（二〇一四）九月二十七日～十月十八日

講演「藤原頼通の時代と文化世界―文化発信と知の共有の基層―」日記文学会第七〇回大会 シンポジウム基調講演 平成二十八年（二〇一六）八月二十日

講演「『源氏物語』から『更級日記』へ」第二十九回「源氏物語アカデミー」（福井県越前市）平成二十八年（二〇一六）十月二十二日

「『更級日記』を読む―菅原孝標女をめぐる人びと―」平成二十八年（二〇一六）千葉県袖ヶ浦市立中央図

書館文芸講座講師（全四回）十一月十一日～十二月

講演『『源氏物語』へのまなざし―物語としての『更級日記』―』平成二十九年（二〇一七）三月四日 房

総古代道研究会 第三十三回セミナー

講演『『更級日記』と市原―物語作者孝標女をはぐくんだ上総の国府―』「いちはら埋文講座」於市原市民

会館大会議室平成二十九年（二〇一七）九月三十日

仙台文学館ゼミナール二〇一七『更級日記』を読む・特別版』（横溝博氏と対談）平成二十九年

（二〇一七）十月二十八日 仙台市立文学館

講演「藤原頼通の文化領導意識について―「高陽院行幸和歌」時代を中心に―」平成三十年（二〇一八）五

月十八日 大東文化大学日本文学会春季大会

「更級日記の世界―上総国（千葉県市原市）から上洛千年紀―」流通経済大学・松戸市生涯学習推進課連携

講座講師 「物語作家への道―やっぱり私は物語がすき―」物語作家になった「わたし」の物語―」令

和元年（二〇一九）十一月十六日

他